

## 1. 研究主題

中学校における教科を超えた授業研究

～考えるための技法「思考の引き出し」と ICT 活用を共通視点として～

観音寺市立中部中学校 教諭 高橋 由佳

## 2. 研究の目的と動機

中学校では教科の専門性が高く、授業研究は教科ごとで行うことが多い。教科で研究大会を受けたときにも他教科が研究に関わることは少ない。良い研究が行われても、その教科だけに学びが終始するのであればリソースを十分に生かしているとは言えない。研究授業や相互授業参観が行われても、一時的、かつ短期的なもので終わってしまう現状がある。そこで、中学校における教科を超えた授業研究の意義、そして持続的に実施するための条件を明らかにすることを目的とし、本研究を実践した。

## 3. 研究の概要

昨年度は、調査分析（聞き取り調査、アンケート調査）、相互授業参観などを実践した。その結果、教科を超えた授業研究の意義として①学年、教科を超えた学校の一体化、②生徒理解の深まり、③教科横断的な視点や考え方の浸透、④授業スキルの共有、⑤同僚性の高まり、⑥教育観や授業観の変容の6点、持続的に実施するための条件として①研究主題・内容の共通理解、②授業研究を進めるために必要なニーズの把握、③目的に応じた研修形態の決定、④教科内授業研究の時間確保、⑤「相互授業参観」の早期の日時設定及び周知、⑥学びの共有方法の設定、⑦授業研究の効果検証、⑧教科を超えた授業研究の学びの蓄積の8点が見出された。

昨年度の結果を踏まえて、本年度行った主な実践は以下の通りである。

### ①「思考の引き出し」の内容精選

考えるための技法である「思考の引き出し」を11項目から5項目に精選した。板書用カードは、各教室共通の場所に設置し、常に確認できるようにした。

### ②研究教科内授業研究（教科部会）の時間確保

ICTを活用した授業展開の研究や情報共有、要請訪問に向けての授業内容検討などを行った。

### ③研修だよりの発行

年度初めの研究内容の共通理解、教科部会の内容の共有、相互授業参観の学びの共有を行った。

### ④相互授業参観の実施

期間は6月～10月の3ヶ月間とした。5月に各教科で誰がどの期間に公開をするのかを決定した。職員が目にしやすい職員室の扉に、次週の公開予定を張り出した。

### ⑤アンケート調査・分析

11月27日～12月1日でアンケートを実施した。※アンケート調査の詳細は発表でお伝えします。

## 4. 研究の成果と課題

今年度は、本校が会場校の一つとなり、国語の全国大会が行われた。当日は、本校の教員のほとんどが自主的に授業を参観した。他教科の教員が運営だけではなく、参観という形で関わったのは大きな一歩であるとする。生徒の思考の時間の確保の大切さ、発言や活動のしやすい雰囲気作り方、自分の教科でもできそうなアイデアの発見など様々な学びが感想で見られた。

しかし、公開授業の参観という形は昨年同様うまくは進まなかった。感染症が流行したこともあり、空き時間には授業参観よりも、学級や校務分掌の仕事が優先されている。しかし、他教科の授業を参観したいと答える教員は多いので、時間の確保、ニーズに合わせた研修の実施が課題である。